

神戸「ガーデンシティ舞多聞」

みついけプロジェクト6、てらいけプロジェクト2

GARDEN CITY MAITAMON IN KOBE,

MITSUIKE Project6, TERAIKE Project2

齊木 崇人 大学院芸術工学研究科 教授
佐々木 宏幸 デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授
鎌田 誠史 大学院芸術工学研究科 助手
谷口 文保 先端芸術学部クラフト・美術学科 講師
久本 直子 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 助教

Takahito SAIKI Graduate School of Arts and Design, Professor
Hiroyuki SASAKI Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor
Seishi KAMATA Graduate School of Arts and Design, Assistant
Fumiyasu TANIGUCHI Department of Crafts and Art, School of Progressive Art, Associate Professor
Naoko HISAMOTO Department of Visual Design, School of Design, Assistant Professor

要旨

「ガーデンシティ舞多聞」の第1工区目である「ガーデンシティ舞多聞」みついけプロジェクトは、都市再生機構と神戸芸術工科大学、そして住民との連携で進められている宅地開発プロジェクトである。新しい郊外居住と持続可能な地域コミュニティづくりを目指すこのプロジェクトは、約6haの面積に、宅地68区画、緑地公園、街区公園、共同施設(コミュニティスペース)が配置される。

さらにみついけプロジェクトの計画手法を使用して、「みついけ南プロジェクト」(全82画地)の計画を行っている。ここでは、「グループ募集」を導入した。ここでの「コミュニティづくり」「ルールづくり」「すまいづくり」はみついけプロジェクトでの経験がいかされている。

また、ガーデンシティ舞多聞の西端部に位置する、自然地形を活用した「てらいけプロジェクト」(約10ha)を現在整備している。「みついけプロジェクト」「みついけ南プロジェクト」の経験をいかし継続的な住宅コミュニティの創造と日本の住宅が抱える課題の解決を目指している。

住まう人が自らのまちを誇りに思え、そして、その環境の価値を共有できるまちをつくれるか。次の世代を見据えた提案が、今後のまちづくりの目標である。

Summary

The area developed in the first phase within The Garden City MAITAMON Project is named MITSUIKE. The MITSUIKE project is a residential development project that has been implemented through collaboration between KDU, UR and the residents.

The town planning methods employed by the MITSUIKE Project which introduced the group application system were also applied to implement the MITSUIKE Minami Project (for a total of 82 lots). The MITSUIKE Minami project is making use of the experience obtained through the MITSUIKE project in community building, rule development and residential design.

Furthermore, the project to develop TERAIKE Community (approx. 10 ha), located in the westernmost part of the Garden City MAITAMON, is currently under way, making effective use of natural geographic features. Capitalizing on the experience of the MITSUIKE Project and the MITSUIKE MINAMI Project, the TERAIKE Project aims to create a sustainable residential community and to resolve the aforementioned challenges confronting Japanese housing.

0はじめに

0-1 「ガーデンシティ舞多聞」の概要

新しい郊外居住の形を目指す「ガーデンシティ舞多聞」は、神戸芸術工科大学の約1km南に位置する、旧舞子ゴルフ場(約108ha)で開発中のプロジェクトである。施行者の都市再生機構は、計画人口約8,400人、計画戸数約2,600戸を予定し、2018年の事業完成を目指している。神戸芸術工科大学は、2001年より、事業協力者として、プロジェクトの「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」をサポートしつづけている。2007年3月25日には、「舞多聞まちびらき記念式典」「舞多聞まちびらきフェスタ」が行われた。

(図0-1-1, 0-1-2)



図0-1-1 「ガーデンシティ舞多聞」空撮(写真:都市再生機構2007)



図0-1-2 「ガーデンシティ舞多聞」位置図



図0-1-3 みつつけ地区のまちなみ

第一工区「みつつけプロジェクト」(約6ha)は、旧ゴルフ場の起伏のある地形や斜面緑地を生かし、緩やかな曲線を描く道路、約120～500坪(平均約220坪)のゆとりある宅地68画地、街区公園(舞多聞みつつけ公園)、都市計画緑地(学園南緑地)、コミュニティ施設(舞多聞まちづくり館)が配置され、自然豊かな居住環境を実現している。全面地が、一般定期借地権方式(50年)で供給され、借地価額は月額4万4千円～12万8千円(保証金200万円の場合)となっている。2004年末に入居者募集が行われ、2005年1月に、グループ向け募集(40画地)と個人向け募集(28画地)の入居予定者が決定した。2006年3月の宅地引き渡し以降、個々の住まいづくりが進められている。(図0-1-3)

第二工区「みつつけ南プロジェクト」(約3ha)は、「みつつけプロジェクト」の南西部に位置する。全82画地のうち、23画地は、ワークショップで事前に形成したグループ単位で応募する「グループ申込型宅地分譲」が採用され、2007年春に宅地引渡しが行われた。残りの59画地のうち、27画地は民間住宅事業者による分譲、22画地は一般宅地募集によって分譲された。

最終工区「てらいけプロジェクト」(約10ha)は、「ガーデンシティ舞多聞」の西端部に位置している。現在、神戸芸術工科大学と都市再生機構は、「みつつけ」「みつつけ南」の経験を生かした、「てらいけ」の「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」の実施方針について、検討を進めている。(図0-1-4)

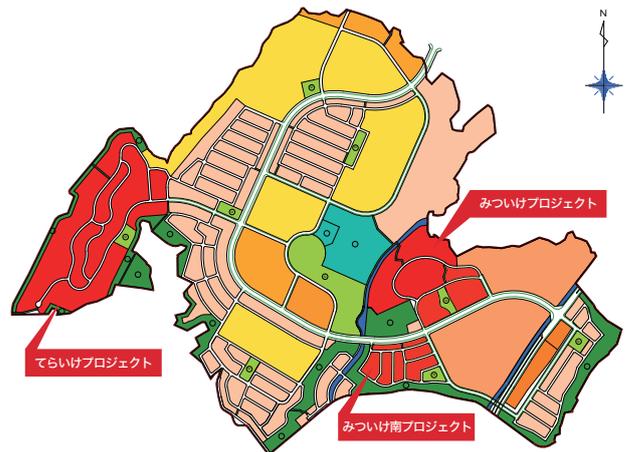


図0-1-4 「みつつけプロジェクト」「みつつけ南プロジェクト」「てらいけプロジェクト」位置図

0-2 研究の経緯

本稿は、2001年から神戸芸術工科大学が都市再生機構の事業協力者としてサポートしている「ガーデンシティ舞多聞」の実践に関する研究報告である。実践内容は、2004年度から継続的に神戸芸術工科大学紀要に発表し、2008年度までに、「田園都市思想」「レッチワースガーデンシティ」から「新・田園都市国際会議2001」、そして、「みついけプロジェクト」「みついけ南プロジェクト」の「スペースデザイン」「コミュニティデザイン」「エリアマネジメント」の実践内容について、また「てらいけプロジェクト」の「スペースデザイン」「アンケート調査」について言及した。

2008年度は、みついけプロジェクトとみついけ南プロジェクトの、「住まいづくり」「エリアマネジメント」「グリーンネットワーク」、両プロジェクト連携の「緑地管理ワークショップ」、みついけプロジェクトのグッドデザイン受賞、「ガーデンシティ舞多聞」ホームページのリニューアル、そして、てらいけプロジェクトの、「スペースデザイン」、入居希望者獲得を目指した「アンケート調査」、について言及した。

本年度は、引き続きみついけプロジェクトとみついけ南プロジェクトの「エリアマネジメント」「緑地管理ワークショップ」、そしててらいけプロジェクトの「スペースデザイン」「ガーデンシティ舞多聞」HPの再構築、てらいけの目指す空間像・生活像を考える「公開講座」について言及する。

1 てらいけプロジェクトの実践

最終工区「てらいけプロジェクト」(約10ha)は、「ガーデンシティ舞多聞」の西端部に位置している。また、てらいけプロジェクトでは、みついけプロジェクト同様、「ゆとりある敷地面積」「住民間の土地の共有意識」を目的として、定期借地権制度が採用される予定である。現在、神戸芸術工科大学と都市再生機構では、「みついけ」「みついけ南」の経験を生かした、「てらいけ」の「コミュニティデザイン」「スペースデザイン」「エリアマネジメント」の実践について、検討が進められている。(図1-1-1, 1-1-2)

1-1 てらいけプロジェクトのスペースデザイン

1-1-1 みついけの経験を生かす

都市再生機構と神戸芸術工科大学は、てらいけの実践については、「みついけの経験を生かし、みついけ以上のクオリティを確保」を目標として、検討を進めている。2009年度は、主に都市計画決定している道路線形に基づいたてらいけプロジェクトの画地割について検討された。



図1-1-1 てらいけプロジェクト現況 (google earth)



図1-1-2 てらいけプロジェクトアクソメ (作成：齊木研究室、2007)

(1) 区画割案の作成

てらいけプロジェクトの区画割計画に際して、「購入しやすい面積の確保(価格との兼ね合い)」、「クルドサックやコモンを用いた旗竿の解消(私道の所有形態の検討)」、「ゆとりと安全性」、「隠れる場所をつくらないようにする」といった項目が検討された。

(2) 住まいづくりの検討

てらいけプロジェクトは、みついけプロジェクト同様、「敷地と一体化した住宅計画」を検討した。齊木研究室が設計をサポートしたみついけプロジェクトの住まいづくりの事例を取り上げ、宅地形状等の検討を行った。

(3) コミュニティ形成

てらいけプロジェクトでは、斜面地を利用した緑地が計画されている。齊木研究室では、これに加えて、南北を軸に3か所の小規模な緑地を設け、この緑地をコアとした3つのコミュニティを形成することを提案した。

1-2 てらいけプロジェクトアンケート調査

2008年1月、てらいけプロジェクトのニーズと入居希望者、定期借地権制度のニーズ把握を目的としたアンケート調査が実施された。アンケートには、てらいけプロジェクトの提案パンフレットを同封した。パンフレットには、プロジェクトの概要、みついけプロジェクトの歩み、みついけプロジェクトを事例とした定期借地権に関する情報等を掲載した。

調査対象は、「ガーデンシティ舞多聞」周辺の既存の住宅地約4万4千世帯、「舞多聞倶楽部」会員約1,600世帯、その他の計約4万6千世帯とし、約320世帯からの回答を得た。関心度を測る項目においては、「今すぐ住みたい」(60世帯)、「いずれ住みたい」(168世帯)、計228世帯と、一定のニーズがあることが確認できた。また、定期借地権に関する項目では、「定期借地権希望」(145世帯)、「一般所有権希望」(128世帯)と、定期借地権にも半数以上のニーズがあることが確認できた。

1-3 てらいけプロジェクトの理念の共有化

「コンセプトシートの作成」

てらいけプロジェクトでは、これから実施する計画の方向性を検討するため、プロジェクトのコンセプトシートを作成した。このコンセプトシートは、「1-1-1. みついけプロジェクトの経験を生かす」での検討から、ガーデンシティ舞多聞の理念「新・郊外居住」とみついけプロジェクトで実践してきた手法を捉え直すことで、今後の計画方針を確定することを目的としている。(図1-3)

みついけプロジェクトでは「新・郊外居住」の5つの理念を設定し、その実現手法を実践してきた。

- ①「旧ゴルフ場の緑や地形を活かすエコロジカルデザイン」
- ②「安全で安心できる参加型のコミュニティデザイン」
- ③「多様なライフスタイルとライフステージに答える多様な住まい」
- ④「ゆたかなゆとりある敷地に美しい住宅」
- ⑤「新田園都市の質の高い住環境はコミュニティの共有財産」

てらいけプロジェクトでは、上記の5つのまちづくりの理念を引き継ぎながら、新たに以下の手法を追加提案した。

- ①「コミュニティで育てる緑」
- ②「てらいけ公園・コミュニティスペース(集会施設用地)の設置」
- ③「コミュニティ形成型宅地(コモンスペース付き宅地)」と「環境へ配慮した取り組みの実地」
- ④「多様な歩行者空間のネットワークと通り沿いの表情の創出」の強化項目として、「コミュニティスペース(集会施設用地)の設置」「道路沿いの植栽」「コモンスペースの設置」「フットパスの設置」

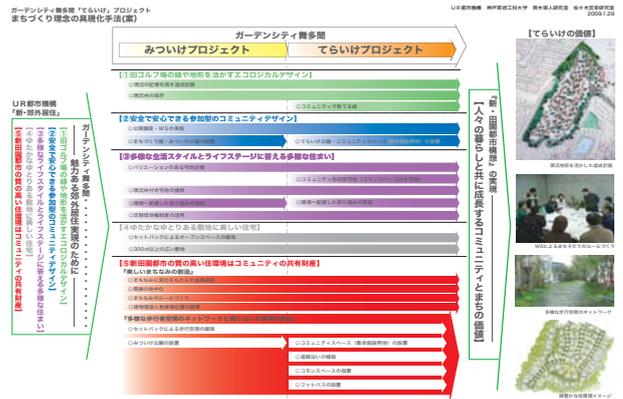


図1-3 まちづくり理念の具現化手法コンセプトシート(案)

1-4 てらいけプロジェクトマスタープランの作成

2008年度では、空間イメージの検討としててらいけプロジェクトのマスタープランを作成した。(図1-4-1) このマスタープランは、コンセプトシートで掲げた5つの理念とその実現手法によって現れるまちの姿を可視化することを目的としている。今後、ワークショップを通じて将来のコミュニティの住民と検討を重ねながら、マスタープランに表される像を共有することを目指している。

1-4-1 てらいけプロジェクトマスタープランの検討

<敷地内の構造物等配置に関する基本条件>

【住宅】

- ① 9m × 7mの建築面積を最小建築面積の目安とする。
- ② 南面に建物の長手方向(9m)が向くように配置する。

【駐車場】

- ① 1台につき、乗降車スペースを含む6m × 3mのスペースを確保する。
- ② 駐車の並び方は、十分な間口のある敷地では並列で駐車する。十分な間口のない敷地では縦列で駐車する。
- ③ 2台以上の確保を原則とする。



図1-4-1 てらいけプロジェクトマスタープラン

1-4-2 敷地条件の異なる空間イメージの検討

2009年度では、具体的な空間イメージの検討を敷地条件の異なる以下の5つの場所を想定して行われた。

- I. 「外側道路に面する画地」
- II. 「内側道路に面する画地」
- III. 「広場型のコモンに面する画地」
- IV. 「ストリート型のコモンに面する画地」
- V. 「集会所用地に面する画地」

上記の5つの場所に対する検討は、まちなみを作り出す単位としてみつけプロジェクトで用いられた「向こう三軒両隣」を基本コミュニティ単位として設定し、それぞれのエリアに、住宅の設計と周辺のランドスケープの検討が行われた。

検討を行う際には、基本条件として以下の事項を設定した。
 <敷地内の住宅の設計と周辺のランドスケープデザインに関する基本条件>

①【住宅】

- ①-1. 9m×7mの建築面積を最小建築面積の目安とする。
- ①-2. 各エリアの6住戸は、核家族、2世帯、老夫婦、店舗付き住宅、のいずれかを設定し、それぞれ1住戸以上ずつ配置する。
- ①-3. 1階にはリビングルーム、ダイニングスペース、風呂、トイレ、ベッドルームを住戸の種類に応じて必要面積を配置する。

②【駐車場】

- ②-1. 1台につき、乗降車スペースを含む6m×3mのスペースを確保する。
- ②-2. 住宅と駐車場2台以上の確保を原則とし、住戸の種類に応じて駐車台数を考える。
- ②-3. 駐車場は建物前面の壁面より後退した位置に設ける。

③【植栽】

- ③-1. 1軒につき1本のシンボルツリーとなる樹木を持つ。

I. 「外側道路に面する画地」(図1-4-2, 1-4-3)

外側道路はてらいけプロジェクトのエリア全体を周遊するように配置されており、豊かなまちなみの表情を生み出す要素である。

豊かなまちなみを表現するための具体的な手法としては、道路側から1.5mの「植栽スペース」、1mの「歩行者スペース」を設け、さらに2.5m以上の住宅壁面のセットバックを提案している。

また、植栽スペースにシンボルツリーを街路樹として配置することにより、歩行空間の充実と人々のアクティビティを促すとともに、まちなみの連続性の創出を意図している。



図1-4-2 周回道路及びクルドサック沿いのデザイン



図1-4-3 まちづくり理念の具現化手法(案) (2008年度作成)

II. 「内側道路に面する画地」(図1-4-4, 1-4-5)

内側道路はてらいけプロジェクトの中心を貫くように配置されている。この内側道路は住民らが立ち止まって井戸端会議をしたり、子ども達がボール遊びをするなど、エリア内のコミュニティ形成を促すような空間として位置づけた。

内側道路に面する画地については、道路側から2.5mの住宅のセットバックのなかに各住戸のシンボルツリー(まちなみの木)を配置させるように計画することで、内側道路がまちなみの広場として演出されるような提案を行った。



図1-4-4 内側道路とそれに面する画地のデザイン

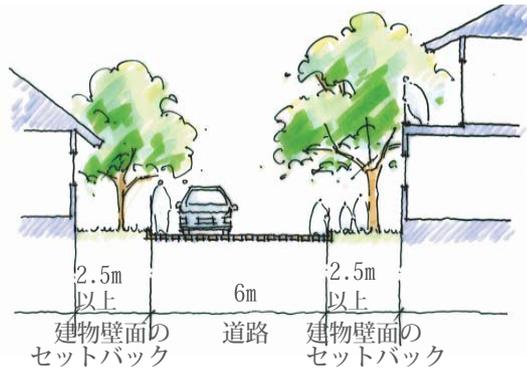


図1-4-5 まちづくり理念の具現化手法(案) (2008年度作成)

Ⅲ.「広場型コモンに面する画地」(図1-4-6)

自然地形をいかした宅地計画の過程で発生した旗竿敷地の解消方法のひとつとして、旗竿部分を束ねて広場状にした「広場型コモンスペース」を提案した。

広場型コモンの提案により、旗竿敷地の持つ「裏側」のイメージを解消すると同時に、共有空間としてまとまったオープンスペースを生み出すことを目的としている。

今年度では具体的に住戸を配置しながら広場型コモンをパブリックな場所として演出するための方法を検討した。



図1-4-6 広場型コモンに面する画地

Ⅳ.「ストリート型コモンに面する画地」(図1-4-7)

旗竿敷地のもう一つの有効活用手法として「ストリート型コモン」を提案した。

ストリート型コモンでは、旗竿部分を束ねて道状にし、回遊性を創出することで旗竿敷地の持つ「裏側」のイメージを解消し、歩行者空間のネットワークとしても機能することを目的としている。

ストリート型のコモンではそれぞれの宅地からコモンとして土地を提供した部分が道となる。

今年度はストリート型コモンの具体的な空間デザインの検討を行った。



図1-4-7 ストリート型コモンに面する画地のデザイン

Ⅴ.「集会所用地に面する画地」(図1-4-8)

てらいけプロジェクトでは、コミュニティ内での自治会等の運営を行うことを目的とする場所として「集会所用地」としての敷地が検討されている。

本年度では集会所用地に面する画地の具体的な空間デザインの検討を行うことで、この集会所用地を含む空間がまちに対してオープンな場所として、プロジェクト内のコミュニティ形成の場として位置づけられるような空間デザインの検討を行った。



図1-4-8 集会所用地に面する画地のデザイン

1-4-3 イメージCGの作成（図1-4-9）

てらいけプロジェクトの全体イメージCGを作成した。



図1-4-9 全体マスタープランのイメージCG

1-5 まちづくりのルール（図1-5-1）

2009年度、みついけプロジェクトのルールをベースにてらいけプロジェクトの検討を行った。

このまちづくりのルールがまちなみを整える手段として大きな役割を担うことになる。

既に入居が始まり、自治会と協定運営委員会が組織されているみついけ地区（舞多聞東3丁目）、みついけ南地区（舞多聞東2丁目）では、「建築協定」「緑地協定」「ガイドライン」によりまちなみの誘導が行われており、建築協定、緑地協定、ガイドラインについては、住民組織による建築・緑地協定運営委員会によって、それぞれの地区内の新築・増築・外構の申請に対しての調整と許可審査を行っている。

みついけプロジェクトでのまちづくりルールとの大きな変更点としては、各住戸のシンボルツリー（まちなみ）の位置と駐車場の位置の誘導である。

また、前項の空間イメージの検討作業と並行しながらそれぞれの住戸が上記のルールを反映することのできる敷地になるように調整を行った。

実際にまちで運用されるルールについてはみついけプロジェクトと同様に、次年度以降の公開講座と住民参加型のワークショップを通して住民とともに検討を行う予定である。

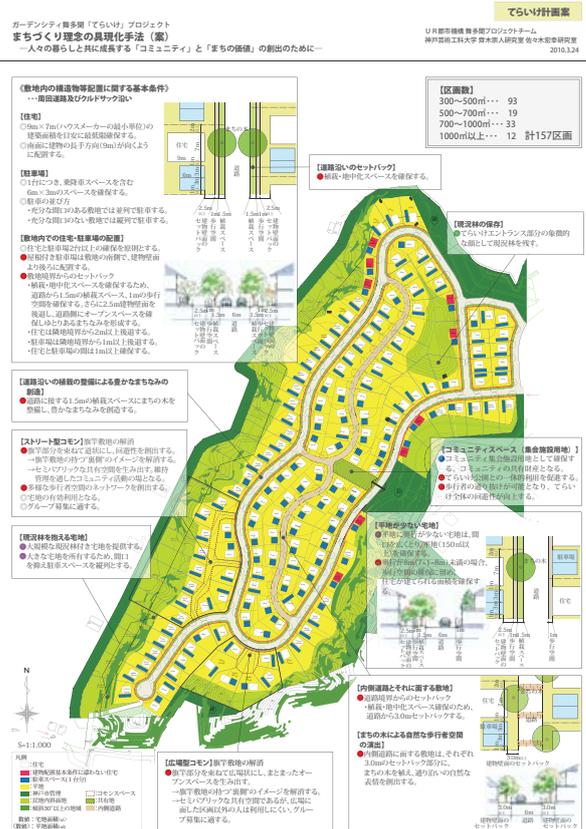


図1-5-1 まちづくりのルール（案）

1-5-1 外構ガイドライン

みついけプロジェクト、みついけ南プロジェクト、てらいけプロジェクト以外の敷地を対象に、外構デザインガイドラインの策定を行った。

このデザインガイドラインは法的強制力の無い紳士協定であるが、舞多聞全体の敷地にも周知させ、舞多聞全体として統一感のある空間形成を計っていく目的を持っている。すなわち、従来通りの宅地販売の方法を用いた宅地についても、みついけプロジェクト、みついけ南プロジェクト、てらいけプロジェクトのように、生き続けるまちとしてのあり方を考え、持続的なまちの発展が図れるように配慮するものである。

1-5-2 外構ガイドラインの策定

今回の外構ガイドライン作成では、従来型のコンパクトな計画宅地においても対応できる項目が求められる。そこでみついけ地区・みついけ南地区・舞多聞1丁目を主とし、その他周辺地区（小東山・西神中央等）の住宅地における外構デザイン及びまちなみに着目した調査を実施し、それをもとにKJ法を用いて項目の整理を行った。（図1-5-2）

調査の分析から、ガイドラインに掲載する大きな3つの項目（①植栽の効果②見通しへの配慮③駐車スペースへの配慮）を設定した。

(3) 駐車場に配慮して表情豊かなまちなみを創出する
(図1-5-5)

駐車場の位置や舗装に配慮・工夫をすることと、カーポートを設置する場合にはその素材にも配慮することで、車が目立つまちなみにしてしまったり、コンクリートなどの素材によってまちなみを無機質にしてしまわずに、表情豊かなまちなみを創出することを目的としている。

具体的な要点として以下の3点を示した。

- ① 駐車スペースの位置への配慮
- ② 駐車場の舗装の工夫
- ③ 素材や位置に工夫したカーポート

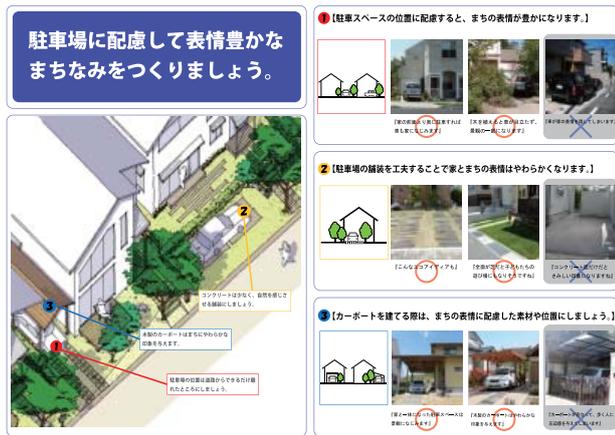


図1-5-5 ガイドラインページ（駐車場に配慮して表情豊かなまちなみを創出する）（作成総括：大西久美）

1-6 住民参加型計画の策定

住民参加型計画では、事業計画との兼ね合いも踏まえ、空間デザインとコミュニティ形成をすすめるためのスケジュールを検討した。

具体的にはまちのルールづくりとコミュニティを形成するための、公開講座・ワークショップのスケジュールの作成である。

「まちのルールづくり」での検討事項は、まちのハードに対するものであり、公開講座と住民参加型ワークショップを通して、まち全体のスケールから各住戸へと検討を行うことで、ひとつひとつの住戸がまちなみを形成していくように考えられている。

「コミュニティ形成」での検討事項はソフト面に関わるものであり、将来的に、自らのまちに対して住民が手を加えたり運営するような力を持ったコミュニティを形成できるよう、実際の組織の形成を行う。空間デザインの検討を住民参加型のワークショップで行うことで実際にまちや家に対する関心を共有し、将来像の検討を行うことで自立できる力を持ったコミュニティの形成を目指している。

1-6-1 第1回公開講座「ガーデンシティ舞多聞の住まいづくり」
2009年11月29日（日）、ガーデンシティ舞多聞でら
いけプロジェクト第1回公開講座が行われ、22組30人
が参加した。（図1-6-1、1-6-2）

内容は、ガーデンシティ舞多聞みつけプロジェクトのこれまでの概略と、本格的に活動を開始した『てらいけプロジェクト』のこれからの方向性についてである。

てらいけプロジェクトのエリアは、みつけプロジェクトより大きなエリアで計画が進められるため、今回の公開講座では、てらいけプロジェクトの住まいの提案(イメージ)を紹介した。

「てらいけプロジェクト」では、「みつけプロジェクト」で蓄積した経験とコンセプトが引き継がれるとともに、今後予定している公開講座や住民参加型ワークショップによって、将来プロジェクト内に住むことを考えているユーザーと計画者である神戸芸術工科大学とUR都市機構が共にまちの価値について検討し、将来像を共有することで、てらいけの姿を導き目指していくという方針を示した。



図1-6-1 第1回公開講座チラシ（作成：橋本大樹）



図1-6-2 第1回公開講座の風景

1-6-2 第1回現地見学会

公開講座のあとには、てらいけプロジェクト予定地の第1回現地見学会を開催した。現地見学会には28組39名が参加した。

現地はまだ造成が始まったばかりであり、プロジェクトのエリア周辺を囲む現況林や高台から望む景色などが確認された。

UR都市機構島岡氏から模型を示しながらの説明が行われ、参加者からは明石海峡大橋や海が思ったより望めたとの声が聞かれた。（図1-6-3、1-6-4）



図1-6-3 現地見学会風景



図1-6-4 現地風景

1-6-3 第2回公開講座「ガーデンシティ舞多聞の住まいづくり」

2010年3月14日（日）、ガーデンシティ舞多聞てらいけプロジェクト第2回公開講座「魅力あるまちなみと豊かな生活」が行われ、20組25名が参加した。（図1-6-5）

最初に神戸芸術工科大学学長・齊木崇人よりあいさつがあり、第1回公開講座の概略と、本格的に活動を開始した『舞多聞てらいけプロジェクト』のこれからの方向性等、プロジェクトの意義について振り返った。

神戸芸術工科大学准教授・佐々木宏幸により、アメリカの先進的な事例を紹介しながら舞多聞てらいけプロジェクトの具体的なまちづくりの方向性について説明を行った。講義後には参加者との活発な議論が行われた。（図1-6-6）

—大学で学ぶ新しい住まい方—
**神戸のなかで
いちばん気持ちの
よいまちにしたい**

みんなでつくる舞多聞てらいけプロジェクト
UR × KDU × MyLife
UR都市機構 神戸芸術工科大学 これから住まうみなさん

第2回てらいけ公開講座のお知らせ
【日時】2010年3月14日（日）10:00～12:00まで（予定）
【場所】神戸芸術工科大学クリエイティブセンター2階 プレゼンテーションルーム
【参加費】無料【締め切り】2010年3月12日（金）13:00まで

【講座内容】
『魅力あるまちなみと豊かな生活』
アメリカに学ぶコミュニティ開発の事例をもとに、てらいけが目指すべき空間環境、生活環境について考えます。

【コーディネーター】佐々木宏幸
神戸芸術工科大学 環境・建築デザイン学科 准教授
Frederick Thurgood Spatial Urban Design 神戸オフィス代表
建築・都市計画・ランドスケープ設計事務所、コミュニティ開発、
公共空間デザインプロジェクトを多数手がける。

【お申し込み】
ご希望の方は、①氏名 ②連絡先 ③参加人数
④希望参加の有無を記入の上、FAXまたはE-mailにてご連絡下さい。
【参加費】無料 事務局 Fax 0120-781-021
E-mail info@matatam.jp

【公開講座に関する問い合わせ先】
神戸芸術工科大学（津田）
〒651-2196 神戸市西区学園西町8-1-1
tel:078-784-5263/fax:078-796-2559(平日10:00-18:00)

新しい自然住宅地を望む

てらいけ公開講座申込先・問い合わせ先

図1-6-5 第2回公開講座チラシ（作成：橋本大樹）

(1) アメリカの事例から見る、魅力あるまちなみを作り出すためのエッセンス

まず、魅力あるまちなみがつくりだす豊かな生活をアメリカの事例からそのエッセンスを紹介した。

セント・フランシス・ウッド(カルフォルニア州サンフランシスコ)では、主にまちなみを形成する要素として街路樹や駐車場への配慮の重要性等、シーサイド(フロリダ州パナマ・シティ)では、主に地域コミュニティの重要性やオープンスペースの役割を、ビレッジ・ホームズ(カルフォルニア州デービス市)では、環境への配慮・工夫、歩行者空間のデザイン、菜園や広場・集会所などのコミュニティ空間の魅力を紹介した。（図1-6-7）そして、このような事例の共通点として、「そこに住む住民が誇りに思えるまち」であることを指摘した。

質の高いまちなみを生み出すための取り組みとしてオープンスペース、ストリート、豊かな緑、街路樹、植栽、建物の向きや駐車場の位置への配慮、住民同士の自然なコミュニケーションを促すことや、エコロジカルな環境への取り組みや整備がそのコミュニティに住まう住民に誇りを抱かせ、まちなみや住まいの価値の維持・向上において重要な要素であると説明した。

(2) てらいけエリアにできること

事例紹介に引き続き、紹介されたアメリカのまちなみの価値と住まいの価値を高めるまちづくりの事例の中から、てらいけプロジェクトにおいて5つのポイントを唱えた。

- ①セミパブリックスペース：個々の建物の美しさだけではなく、歩道空間や車道空間、住宅の前庭を含む前面空間の質を向上することがまちなみの質へとつながる。
- ②豊かな緑、街路樹、緑豊かな街路が作り出すまちなみやてらいけエリア周辺の現況林を活かしたまちづくりが重要である。
- ③まちなみへの配慮：建物が作り出すまちなみの表情が豊かであることも重要。建物の向きや配置、駐車場の位置を工夫してまちなみの質を向上させることも重要な要素となる。また、みついけエリアで運用している建築・緑地のルール(建築協定・緑地協定・ガイドライン)も非常に良い参考事例となる。
- ④住民同士の自然なコミュニケーション：質の高いまちなみは空間だけでは成立しない。住民同士のコミュニケーションは重要な要素となる。まちなみのデザイン、住宅のデザインに加えて、コミュニティのデザインが必要。
- ⑤環境・エコへの配慮：自然豊かなてらいけでは、まちなみ自体がエコに配慮したエリアと言える。さらにみついけでも導入されたソーラーパネル等を用いた住まいの工夫によって環境・エコに配慮することも重要な要素である。



図 1-6-6 第2回公開講座の風景

2 ネイチャーアートワークショップ実施報告

舞多聞プロジェクトでは、アートを介してガーデンシティ舞多聞内のコミュニティづくりを行っている。

「みついけ」「みついけ南」に住まう人々を対象とした、UR都市再生機構と神戸芸術工科大学主催の「緑地管理ワークショップ」は、旧舞子ゴルフ場の斜面緑地が残された「学園南緑地」と、隣接する「舞多聞まちづくり館」をフィールドとし、継続的に開催されている。「学園南緑地の緑地管理」と、「舞多聞ネイチャーアート」(第2回以降)の2つのプログラムが同時に開催されている。

「学園南緑地の緑地管理」の「住まう人自らの手による共有財産(緑地)の管理」、「舞多聞ネイチャーアート」の「身近な自然物を用いたアート作品づくり」、これらを通じて、「コミュニティのつながり」「自然とのふれあい」「アートへの関心」を深めることを目的としている。

今回の報告では2009年3月8日と29日に行われた、第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」の内容について報告する。

2-1-1 第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」no.1

第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」プログラム1「木を切ろう」が2009年3月8日(日)に行われた。(図2-1-1)

当日は天候にも恵まれ、8世帯21名が集まった。

このワークショップは、「ガーデンシティ舞多聞」てらいけプロジェクト予定地に植生している樹木をつかって、動物の造形物をつくるプログラムで、参加者が、アートを通じて、てらいけプロジェクト予定地の自然環境に親しむことを目的として企画している。

全2回のプログラムを予定しており、今回はプログラム1「木を切ろう」の日で、家族で協力してのこぎりで木を切ることが行われた。

当日は、舞多聞まちづくり館に集合の後、マイクロバスでてらいけプロジェクト予定地に向かい、内容説明の後、作業を開始し、のこぎりを使って木を切った。

また、参加者の方々に、プレゼントとして、舞多聞で採れたコナラの木にシイタケ菌を注入したほど木が配られた。その後、再びマイクロバスでまちづくり館に移動し、解散となった。



図 2-1-1 緑地管理ワークショップの案内チラシ
(作成:橋本大樹)

2-1-2 第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」no.2

2009年3月29日(日)、舞多聞倶楽部第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」のプログラム2「動物を作ろう」が行われた。(図2-1-2, 2-1-3)

今回は、プログラム2「動物を作ろう」の回で、家族で協力して、プログラム1「木を切ろう」で採取した木や、当日採取した木や枝を使って、動物の制作をおこなった。

内容説明の後、午前の作業を開始し、7グループに分かれて動物の骨組みを作り、途中段階の講評の後、現地では昼食をとった。

午後からの作業では、小枝や葉の付いた枝、花などを使って、動物の身体や顔、尻尾などを作り、2時間の作業の後には、馬やキリンといった様々な動物が姿を現した。

そして、それぞれのグループの作品の前での写真撮影、作品の講評、全体の集合写真の撮影の後、プログラムを終了した。



図 2-1-2 緑地管理ワークショップの風景 (2009.3.29)



図 2-1-3 緑地管理ワークショップの風景 (2009.3.29)

2-2 第6回 自然とふれあうワークショップ・舞多聞ネイチャーアート

2010年1月31日、舞多聞まちづくり館にて「第6回 自然とふれあうワークショップ」が開催された。

今回のプログラムの内容では、ガーデンシティ舞多聞で採れたコナラやクヌギの木を使った、しいたけのホダ木づくりをおこなった。(図2-2-1)

ネイチャーアート 「自然と遊ぼう!!、アートをしよう!!」講師 谷口文保(神戸芸術工科大学専任講師)では、「ガーデンシティ舞多聞」で採れたカクレミノやヒイラギ、タイサンボクなどの葉っぱを使い、フロッタージュの制作をおこなった。(図2-2-2, 2-2-3)

フロッタージュの制作は床に葉っぱを置いて、クラフト紙を重ね、色鉛筆で擦って、葉っぱの形を写し取る。

作品は何枚かの習作を経て、1世帯に1点の作品の制作を行った。

その後、参加者全員で大きな作品づくりに取り組み、葉っぱを円形に並べ、クラフト紙を重ね、皆で一斉にフロッタージュを行った。

ワークショップ実施後に行われたアンケートでは、ワークショップの目的として掲げている「コミュニティのつながり」「自然とのふれあい」「アートへの関心」について、「ワークショップを通じて知り合いになれた人がいた」ことや、「自然と親しむことができた」ことを指摘する多くの回答を得ることができ、一定の成果が認められた。

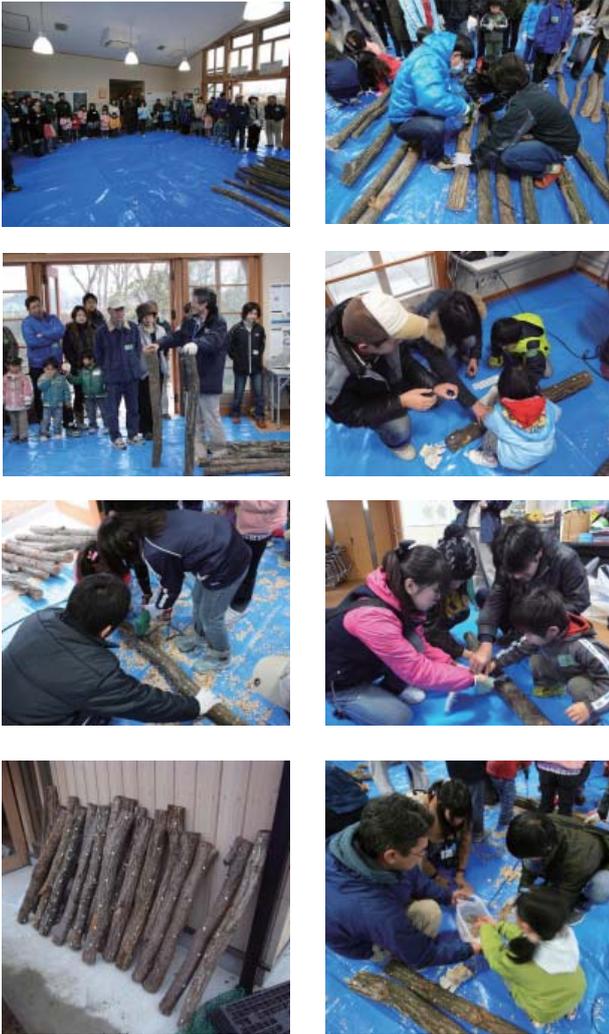


図2-2-1 自然とふれあうワークショップの風景 (2010. 1. 31)



図2-2-3 自然とふれあうワークショップの風景 (2010. 1. 31)

アンケート結果

1. 今回のワークショップは何回目のご参加ですか？
- はじめて 11人
 - 2回目 1人
 - 3回目 0人
 - 4回目 1人
 - 5回目以上 2人
2. 今回のワークショップを通じて知り合いになった人はいましたか？
- 1～2人いた 3人
 - 2～3人いた 3人
 - 4人以上いた 1人
 - いなかった 2人
3. 今回のワークショップで自然と親しむことができましたか？
- とても思う 3人
 - 思う 12人
 - どちらとも言えない 1人
 - あまり思わない 0人
4. 普段、アートについて関心をお持ちですか？
- かなり持っている 1人
 - 持っている 7人
 - どちらとも言えない 6人
 - あまり持っていない 1人
5. 今回のワークショップでアートへの関心は深まりましたか？
- かなり深まった 2人
 - 深まった 13人
 - どちらとも言えない 0人
 - あまり深まらなかった 0人

6. 次のワークショップ(開催日未定)には参加したいですか？
- 参加したい 15人
 - 分らない 0人
 - 参加したくない 0人
7. 舞多聞エコ倶楽部をご存知ですか？
- はい 7人
 - いいえ 8人
8. 参加してみたいと思う活動を選んでください。
- 花・果樹づくり 9人
 - 里山の生き物調査 13人
 - 里山保全活動 7人
 - リサイクル活動 5人
 - 環境学習 5人
9. 自由記入欄
- ・楽しかった。
 - ・外で自然とたわむれたかった。
 - ・子供たちがどれも楽しく参加できました。ありがとうございます。
 - ・子供たちも積極的に参加して、お土産も頂き思い出になりました。次回はフィールドで活動してみたいです。
 - ・家族みんなで楽しむ事が出来ました。ありがとうございました。
 - ・緑地保全作業、池の管理活動をしたい。
 - ・山に入り木を切ってアートをつくるイベントをしたい。
 - ・子供が自然にふれあう機会なら何でも参加します。

図2-2-2 アンケート結果

3 「ガーデンシティ舞多聞」ホームページのリニューアル

2009年3月、「ガーデンシティ舞多聞」ホームページのリニューアルが行われた。

ホームページは、2003年12月に開設されたものであり、2007年度のリニューアルでは、みついけとみついけ南のプロジェクトの実践によって蓄積された情報の整理と、てらいけプロジェクトでの情報発信の観点からトップページのリニューアルが行われた。

今回のリニューアルでは、具体的に公開講座が始まったことも受け、これからてらいけプロジェクトに参加されるユーザーを引きつけるため、より情報をダイナミックに発信していくための手法が検討された。

トップページに舞多聞プロジェクトや産学連携を表すような写真やスケッチをのせ、分かりやすさとアピール力の向上を図るとともに、全体のプロポーションをスクロールなしで見られるようにした。

また、これから発信されるてらいけプロジェクトや、更新の項目をよりダイナミックに情報の発信を行えるよう工夫した。

上記の作業とともに、内部のページについてもレイアウトを統一し、ページの構成をまとめ直し、よりユーザーが求める情報にスムーズに対応できるように構成をまとめなおした。（図3-1）



図3-1 HP トップページ

4 絵本

第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」では、「ガーデンシティ舞多聞」てらいけプロジェクト予定地に植生している樹木を使って、動物の造形物をつくった。舞多聞の敷地内で実際に木を切り、その木をつかって動物をつくりながら自然環境に親しんでもらうことを目的としたこの公開講座は多くの参加者を得た。

そして、この公開講座で参加した神戸芸術工科大学の学生が感じ取ったものをエッセンスとしてガーデンシティ舞多聞を舞台にこの土地で育つ子供達に向けて、また地域の物語として住民に語り継いでもらうことを目的に絵本の作成を行った。絵本はコンペ形式で数名の学生の作品の中から審査会によって1作品を選定する方式を採用した。（図4-1）

2010年3月12日には、UR都市機構の関係者、こどもコミュニティケアの代表、神戸芸術工科大学の教員による絵本コンペ審査会が開催され、審査の結果1作品「ちいさなきとはじまりのまち」が選出された。（図4-2）

来年度は、この絵本を活用したワークショップを開催し、地域住民や子供達のコミュニティ形成やまちづくり参加を積極的に行う予定である。



図4-1 絵本コンペ審査会

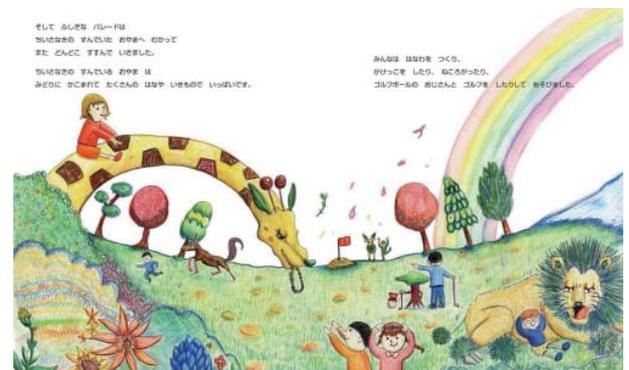


図4-2 絵本「ちいさなきとはじまりのまち」

5 今後の予定

今後は、公開講座とワークショップを運営しながら、本年度定めたまちの姿やそれを実現させていくためのルールについて、将来実際にこのまちに住むことになる住民らと検討を行い、合意形成を計りながらまちづくりを進めていく。

そのなかで、具体的な将来のまちの姿やそれを実現する手法を、両者が共有できる形で提案していく予定である。

6 あとがき

神戸芸術工科大学が、2001年に「ガーデンシティ舞多聞」をサポートしはじめてから9年が経過した。当初から、このプロジェクトを通じて、「生きつづける土地基盤」をつくるために、「日本の伝統的な集落」「コミュニティ」といった過去の経験や、現代の日本に欠けている「使いこなされた土地利用」「土地に敬意をはらう」という概念を、いかに具体化するか、という課題に取り組んできた。そして、私たちが、都市再生機構と共に「提案」「実践」、そして「修正」を積み重ねていく中で導き出した答えが、「コミュニティの共有財産を評価」した「スペースデザイン」「人の関わりのプロセス」を通じた「コミュニティづくり」、そして、「周辺の既存コミュニティ」と連携した「エリアマネジメント」であった。

そして、「みつけ」「みつけ南」の実践で導き出された答えが、一般化されたときに実現できるのか、それを確かめるのが「てらいけ」と言える。

その中で、都市再生機構は、「舞多聞」での「スペースデザイン」「コミュニティづくり」「エリアマネジメント」の経験を生かした、「オールドニュータウン」の再生の仕組みを考えていかななくてはならないであろう。

日本の人口は必ず少なくなる。現状の仕組みでは、「オールドニュータウン」の空地・空家の増加は避けられない。その時に、国土の維持管理を誰がするのか。それを全て行政が負担するのは不可能である。そのためには、今後、できるだけ広い敷地を国民が分担して維持管理していく仕組みを考えていかなければならない。

謝辞

「ガーデンシティ舞多聞」が、独立行政法人都市再生機構西日本支社と業務担当者の方々、そして会員数約1,500名の舞多聞倶楽部会員の皆さんの多大なる理解と協力の下に進められてきたことをここに記します。

[参考文献]

齊木崇人、ロバート・フリーストーン、マウリッツ・ヴァン・ロイヤン編、『New Garden City of the 21st Century?』、神戸芸術工科大学、2002

齊木崇人他、『環境デザインへの招待』、神戸芸術工科大学、2004

齊木崇人、「住宅地におけるエリアマネジメントの展望～新・田園都市の実験～神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト」、『住宅』、2007年9月号、2007

齊木崇人、「新・田園都市実験 神戸「ガーデンシティ舞多聞」」、『建築とまちづくり』、No.360、2007年11月号、2007

齊木崇人他、「新・田園都市の実験－神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2004」』、神戸芸術工科大学、2005

齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト－コミュニティづくり、住まいづくり、ルールづくり」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2005」』、神戸芸術工科大学、2006、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/05/report/01-01.html>、2010年10月15日

齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト2－住まいづくり、ルールづくり、ネットワークづくり」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2006」』、神戸芸術工科大学、2007、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/06/report/04-01.html>、2010年10月15日

齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト4、みつけ南プロジェクト－コミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネジメント」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2007」』、神戸芸術工科大学、2008、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/07/report/05-01.html>、2010年10月15日

齊木崇人他、「神戸「ガーデンシティ舞多聞」みつけプロジェクト5、みつけ南プロジェクト2、てらいけプロジェクト1－コミュニティデザイン、スペースデザイン、コミュニティマネジメント」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2008」』、神戸芸術工科大学、2009、<http://kiyou.kobe-du.ac.jp/08/report/08-01.html>、2010年10月15日

谷口文保、「環境芸術ワークショップの報告2000-2002」、『神戸芸術工科大学紀要「芸術工学2002」』、神戸芸術工科大学、2003

研究協力者

宮代隆司、橋本大樹、藤巻泰輝(本文執筆補助)、大西久美(本文執筆補助)、角健一郎、寺尾巧真、前田明寿香、王子瑛梨、小林桂子、藤井茜、木下怜子、柳川実理、任亜鵬、齊木志真、望月裕圭里